

# 令和5年度学校経営・運営全体構想

須賀川市立柏城小学校

## －教育の今日的課題から－

### <学習指導要領の趣旨>

- 学びに向かう力・人間性等の涵養
- 生きて働く知識・技能の習得
- 思考力・判断力・表現力等の育成
- 豊かな心・健やかな体の育成
- インクルーシブ教育システムの構築

### <県・市等の重点施策>

- “ふくしまの和”で奏でる、こころ豊かなたくましい人づくり
- 市教育振興基本計画施策
- 小中一貫教育の推進

## 教育目標

### 生きる力と豊かな人間性を備えた子ども

#### <育てたい力>

- 自ら課題を持ち、友達や地域の人達と共に主体的に学ぶ力
- 社会には多様な価値観があることを知り、それを互いに尊重しようとする力
- めあてを持ち、最後まで粘り強くがんばる力

## －総合的で調和のとれた教育の展開－

- 目標達成をめざし、全職員が一丸となって、総合的（知・心・体）で調和のとれた教育活動を展開します。
- 「コロナの感染防止」と「教育活動のねらいの達成」の両立をめざします。
- 家庭・地域との連携を深めて、子どもの生きる力を育てます。
- 教職員の不祥事を出しません。

### めざす学校像

- 1 笑顔あふれる元気な学校
- 2 助けあい、励ましあい、高めあう学校
- 3 地域に信頼される安全・安心な学校

### めざす児童像

- 1 心豊かで思いやりのある子
- 2 深く考え、表現できる子
- 3 じょうぶでたくましい子

### めざす教師像

- 1 子どものよさを生かし、伸ばす教師
- 2 授業充実に励む教師
- 3 信頼される教師（服務規律、使命感）

### 心豊かで思いやりのある子を育てます

#### 自他を大切にする心や社会性を育成します

- ① 特別の教科 道徳の時間を核とした道徳性の育成  
思いやりの心の育成 自己を振り返る時間の確保  
規範意識の醸成 情報モラルに関する指導の充実  
心の変容の記録と累積
- ② コミュニケーション能力とよりよい生活習慣の育成  
規律ある生活5つの約束  
「あいさつ・返事」「言葉遣い」「服装」「時間」「整頓」
- ③ 自他のよさに気づき、認め、伸ばしあえる関係づくり  
豊かな体験活動・各種行事の充実 児童による自主的活動の場

### 深く考え、表現できる子を育てます

#### 確かな学力を身に付けさせます

- ① 「わかった・できた」を実感できる授業の展開  
付けたい力を明確にした学力向上プラン 個に寄り添った指導  
ICT活用による個別最適な学び 学んだことを生かす場の設定
- ② 思考力・判断力・表現力の育成と言語活動の充実  
活用力育成シートの活用 「問題解決的な学習」の推進  
「ウェルカムデー」での表現活動 地域に根差した学び
- ③ 学力向上をめざす授業と授業外の活動の着実な実践  
主体的・対話的で深い学びの具現(協同的な学びの深化)
- ④ 個や学年に応じた家庭学習と読書活動の充実

### じょうぶでたくましい子を育てます

#### 基本的な生活習慣の育成と健やかな体づくりに努めさせます

- ① 基本的な生活習慣の定着  
生活リズムの確立「早寝、早起き、朝ごはん」、  
TTによる健康教育・保健指導の充実（歯磨き・性指導・食育）
- ② 教科体育の充実と運動の日常化  
運動身体プログラムの継続実施、実質の運動時間25分確保  
運動の日常化
- ③ 安心・安全な環境意識の育成  
危険予知指導、通学路の安全確保  
交通教室 避難訓練 防犯教室 放射線教育の充実  
新型コロナウイルス感染予防体制とその指導の充実

### スローガン「がんばる！ がんばれ！！ がつながる学校」

目標 → 挑戦 → 成功体験 → さらなる目標

ことの大小を問わず、またその結果がどうあれ、子どもたちがやりたいことをみつけ、やりたいことができ、互いにやったことを認め合うことができる学校

## 小中一貫教育グランドデザイン

- 小中全職員が9年間を見通した各教科の「スタンダードカリキュラム」を活用し、授業の質を高めます。
- 学力向上部・生徒指導部・健康教育部の3部会による9年間を見通した共通指導事項で、教育の質を高めます。

## 家庭・地域との

### 家庭

- ◇ 子どもとの毎日の会話を大切にしましょう。
- ◇ 子どもに早寝・早起き・朝ご飯の習慣をつけさせましょう。
- ◇ 子どもに家の仕事、手伝いをどんどんさせましょう。
- ◇ 子どもに家庭学習をさせると共に、読書好きにしましょう。
- ◇ 子どものわがままは許さず、振り回されないようにしましょう。
- ◇ 子どもに人に迷惑をかけさせないようにしましょう。
- ◇ 学校・担任との意思疎通を図り、同じ方向で子育てを進めましょう。

### 学 校

- ◇ 家庭と連携し、健やかな成長と生活習慣の確立を図ります。
- ◇ 地域と連携し、継続して子どもの安全を守ります。
- ◇ 開かれた学校をつくります。
- ◇ 教員の資質向上に全力を尽くします。

## 連携・協力

### 地 域

- ◇ 児童と挨拶を交わすなど、顔見知りになってあげてください。
- ◇ 不審者から児童を守り、警察や学校にすぐ知らせてください。
- ◇ 児童の危険な行動や悪い行動は、その場で注意し、学校にも知らせてください。
- ◇ 学校ボランティア活動へのご協力をお願いいたします。

1 「教育目標」及び「めざす児童像」

<教育目標>

生きる力と豊かな人間性を備えた子どもの育成  
めざす児童像 【徳】心豊かで思いやりのある子  
【知】深く考え表現できる子  
【体】じょうぶでたくましい子

<めざす学校像>

- 笑顔あふれる元気な学校
- 助け合い、励まし合い、高め合う学校
- 地域に信頼される安心・安全な学校

2 経営の方針

(1) 明るさ・温かさ・新鮮さ

- 明るさ…心身ともに健康で、明るい気持ちで児童に接したい

<どうせやるなら「楽しく仕事」>

- 温かさ…思いやりの気持ちを大切にしたい、想像力を豊かに児童や保護者・職員どうし接したい、職員間の思いやり、お互いさま

<たいていのことは「何とかなる」>

- 新鮮さ…学びの心、得意技を伸ばす、専門性を高める

<それぞれの立場で「一つの目標」>

(2) 学校の最大の危機は信頼を失うこと【公】

- 不祥事の防止
- 保護者や地域からの思いもよらない誤解  
・聞く、話す ・会って話す、説明する ・想像力が不可欠
- 服務倫理意識の維持向上のための具体的な取り組み（例えば「チェックリスト」）

(3) 発信力と受信力

- 学校への信頼を高める手立ては「情報の発信と受信」、メール・学校HP・各種たよりなどを駆使

(4) 報告・連絡・相談

- 校長（教頭）が知らないで困ることはあるが、校長（教頭）が知っていて困ることはない
- まずは教頭に相談
- 報告は「メモ」を載せておくだけでも良い
- 児童の早退、児童のけが、保護者の迎え、保護者との相談、生徒指導関係…、いろいろなことが毎日起きるからこそ

(5) 構造化（カリキュラムマネジメント、横断的な指導）

- 一つのことを単独で重ねていくだけでは「ビルド アンド ビルド」  
⇒「一つやって三つにならないか…」との発想

- (6) 劇的な効果を求めず「紙一枚を重ねていく指導」(の継続)を心がけて
- (7) 児童の自己肯定感を高め、「問題解決的な学習」を実現する取り組み
- 考えを聞く⇒その一部でも実現⇒自己肯定感
  - 学校や地域への関心⇒課題への気づき⇒調べ・話し合い・表現する学習(問題解決的な学習)⇒多様な価値観・社会性
- (8) 本校なりの「働き方改革」を推進
- 職員のアイデア、これまでの取り組みを一層推進
  - 校務支援システムの導入、諸帳簿等の内容・形式の検討と改定
  - 具体的な取り組み(朝の欠席連絡システム、スクリレ、Google formを用いた学校評価アンケート、共有ドライブ、LINE オープンチャット)
- (9) 「With コロナ」時代の教育活動の考え方
- 「コロナの感染防止」と「教育活動のねらいの達成」の両立⇒通常教育活動の実現
  - 「0か100か」ではない考え方、そのバランス
  - 行事等の実施案には、その時々感染状況や「通知」に基づく対策を入れる
- (10) すべての児童を全ての職員で見取る
- いじめ・虐待への対応を全職員で⇒「いじめ防止基本方針」の改定
  - 私たちの責務を再確認、躊躇ない対応
  - 児童も保護者も、相談しやすい職員に相談できる体制
- (11) 「授業と授業研究を第一優先にした学校づくりの推進」(市教委学校教育の重点)に向けて
- 授業研究の負担軽減と日常化(指導案なし、事前研なし、新しい事後研)
- (12) 特別支援教育についての知識を全職員で
- 例えば、ユニバーサルデザインの視点に立った学級づくり・授業づくり
  - 保護者からの相談への組織的な対応
  - 校内でできる発達検査(STRAW-R、WAVES、CARD)の実施とその結果を生かした個別の指導
- (13) PTA活動の充実、学校支援ボランティアの募集
- 学校に保護者や地域の方の姿が多くみられるように
  - 児童の人間関係力の向上、感謝の心、ボランティアの心

### 3 これまで、子どもたちにずっと言い続けてきたこと

どんな小さなことでもいいので、目標を持って過ごすことが  
がんばっている人をみんなで応援すること

- 4 学校から様々な「お願い」をさせていただくことがありますが、それにはそれぞれ根拠があります。先日の『学校だより』第1号でも「出席確認は命にかかわる最優先事項」として、その根拠とともに「お願い」をさせていただきました。今後も、できるだけ「根拠」とともに「お願い」をさせていただきたいと考えております。多様化の現代、ぜひ校長までご意見をお聞かせください。